今後のイベント開催予定

2月3日(月) １３:３０～　「節 分」

職員が鬼に扮し、節分の豆まきを行います！

場所:嵯峨野病院　１階 食堂・談話室

2月29日(土) １３:３０～「地域健康教室」

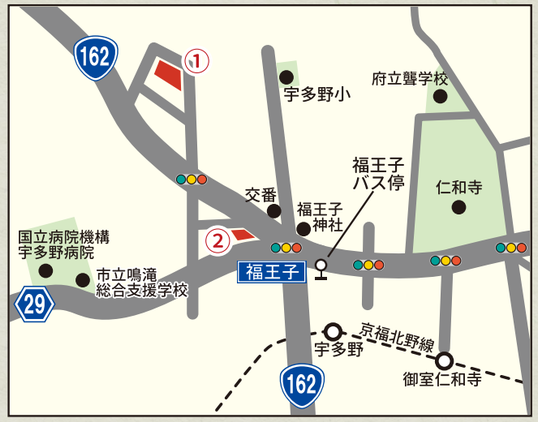
「転ばないからだづくり」

嵯峨野病院 作業療法士 三原(みはら) 崇男(たかお)　　場所:嵯峨野病院　１階 食堂・談話室

3月3日(火) １３:３０～　「ひなまつり」

桃の節句をお祝いします。(甘酒をご用意する予定です)

場所:嵯峨野病院　１階 食堂・談話室



嵯峨野病院グループ 交通アクセス

①
嵯 峨 野 病 院
〒616-8251
京都市右京区鳴滝宇多野谷９
TEL：075-464-0321
FAX：075-461-7383

②
嵯峨野病院居宅介護支援事業所
TEL：075-467-8726

訪問介護事業所さがの
TEL：075-467-8736

〒616-8251
京都市右京区宇多野福王子町２２番６
FAX：075-467-8007

『嵯峨野だより』

題　　字：理事長　清水　紘

編集委員：小松 建次　横山 史織　武田 亜紀子　大木 直子　布川 祐未　高橋 仁美
藤田 亜由美　村上 尋基　立入 久仁美　中村 友美　佐々木 翔平　福島 直人

嵯峨野だより

Vol.63
2020WIN.

一般財団法人 仁風会

嵯峨野病院

在宅療養あんしん病院登録病院
www.jinpukai.or.jp/sagano/hp

平成29年度 研修参加優秀施設 認定

目　次

嵯峨野だより発行理念
新年のご挨拶
院長 小松 建次
院内行事のご報告
お楽しみ会　秋祭り
クリスマス会　もちつき
お知らせ
地域健康教室
日本慢性期医療学会参加のご報告
新入職員紹介
今後のイベントのお知らせ
交通アクセス

嵯峨野だより発行理念

目的

嵯峨野病院並びにその関連施設における包括的組織活動が広く社会から信頼を得るべく、その要望に対応し、よりよく情報を活かすこと並びに職員間の一層のコミュニケーション向上に資することを目的とする。

指針

- 地域社会の関連施設との連携
- 施設としての利用者の促進
- 職員間のコミュニケーション促進と改善

平成２６年４月制定

一般財団法人仁風会 嵯峨野病院 機関誌委員会

まごころ医療宣言

患者様に寄り添うことが何より大切と考えるからこそ、私たちは以下の１０項目を宣言します。【平成７年制定】

1. 患者様とお呼びします
2. 患者様には常に真心と気配りそして優しい言葉と笑顔で接します
3. すすんであいさつをします
4. 患者様から頂き物はしません
5. いつも快適で明るく清潔な病院づくりに努めます
6. 患者様には常に適正な医療を提供します
7. 医師による説明と患者様の選択による医療を進めます
8. 患者様のプライバシーを尊重します
9. より良い医療が行えるよう研修・研鑽に励みます
10. 患者様の人生が最後まで豊かでありますようその意志を尊重します

新年のご挨拶

嵯峨野病院
院長　小松 建次

子（ね）の年の新年あけましておめでとうございます。

皆さま方にはよき新年をお迎えになられたことと心よりお慶びを申し上げます。

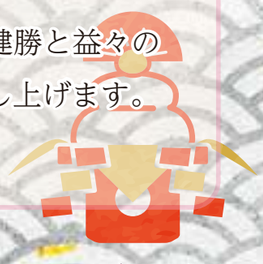
令和２年の干支は庚子（かのえね）であります。前回６０年前の庚子の年（１９６０年）は平穏な年でありました。昨年の己亥（つちのとい）の年は台風、豪雨、河川の氾濫など自然災害の多い年でありました。

今年の子年は災害のない平穏な１年であることを祈るばかりです。

さて、昨年はラグビーW杯で日本中が沸きに沸き、国民の多くが俄かラグビーファンとなりました。わが日本チームの選手達は日本人を含めて７ヶ国の出身者から選ばれて、民族の習性も異なる国々の混合チームでありました。この民族混合チームの一致団結のためのスローガンを「ｏｎｅチーム」という合言葉のもと、選手同士の強い信頼で心を一つに、死に物狂いの激しい練習の中から選手同士が互いに強い絆で結ばれて、世界の強豪との緒戦に臨み、予想に反してどんどん勝ち進み、ベスト８までも進み、日本国民に多大な感動を与えたのであります。この合言葉の「ｏｎｅチーム」は昨年暮れの「令和元年流行語大賞」に選ばれました。

この嵯峨野病院も一つの事業体として「ｏｎｅチーム」の意識のもとで、クリエイティブなコミュニケーションを常に心がけて、互いの信頼と個々の誠実さで、多くの職種間が連携して、常に情報を共有し、患者さんの日々の療養の安全と安心が確保されなければならないと思います。

本年も皆さま方のご健勝と益々のご活躍を切に祈念申し上げます。



院内行事のご報告

10/18 お楽しみ会

庭のキンモクセイが香る頃、1 階食堂・談話室にてデイジー保育園の園児たちによる歌やお遊戯が披露されました。元気よく大きな声で頑張る園児たちの姿に患者様も満面の笑みで惜しみない拍手をおくっておられました。歌とお遊戯の後は患者様から園児たちにお礼のジュースを手渡され、楽しくあたたかいひと時となりました。

11/18 秋祭り

色とりどりの紅葉が窓から顔をのぞかせている 11 月 18 日、1 階食堂・談話室は秋祭りを楽しみにされていた患者様でいっぱいになりました。

法被（はっぴ）を着た職員がお神輿を担ぎ、「わっしょい、わっしょい」と元気な声が響き渡りました。患者様はカラオケを楽しまれたり、職員手作りの栗おしるこや飲み物を召し上がられ、自然と顔がほころんでおられました。

大いに賑わった秋祭りは、楽しさのあまり、あっという間の出来事に感じられました。

12/20 クリスマス会

1 階食堂・談話室でクリスマス会が行われました。患者様もトナカイの角やサンタクロース帽を頭につけられ、会場はクリスマスの楽しい雰囲気に包まれました。

サンタクロースに扮した職員が患者様にプレゼントをお配りしたり、クリスマスツリーを眺めながらチョコレートムースや飲み物を召し上がっていただきました。

職員がハンドベルを演奏すると、曲に合わせて口ずさんで下さったり、笑顔で見守って下さったりと、患者様が楽しんでいただけた事がとても嬉しく、素敵なクリスマス会になりました。

12/26 もちつき

患者様の「よいしょ」「よいしょ」という掛け声とともに杵が振り下ろされ、今年も立派なお餅がつきあがりました。

杵や臼を久しぶりに見て、懐かしむ患者様もいらっしゃいました。餅つきの後にはおしるこが振舞われ「甘くておいしいなぁ」と喜んでおられました。

今年最後の行事も無事に終了し、よい 1 年の締めくくりとなりました。

お知らせ

本年春、介護療養病床を介護医療院に転換します

嵯峨野病院の介護療養病床（120 床）は、本年春を目途に介護医療院へと転換いたします。

介護医療院とは、「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と、「生活施設」としての機能を兼ね備えた介護保険施設です。療養が必要な要介護者に対して、「療養のための医療」と「日常生活上の支援」を一体的に提供する施設として、厚生労働省が介護療養病床からの転換を進めているもので、当院もその方針に従って転換すべく、準備を現在行っています。

地域健康教室のご報告

10月26日

「お口のニオイ、気になりますか？」

講師：嵯峨野病院 歯科衛生士　立入（たちいり） 久仁美（くにみ）

口臭とは、他人に不快な気持ちを与える口の中の匂いのことです。口臭には、生理的口臭(誰にでもある匂い)、病的口臭(歯周病や虫歯の匂い)、外因的口臭(飲食による匂い)、心的口臭(ストレスによる匂い)があります。口臭による匂いが気になる時は、正しいケア、うがいや水分補給、歯科で定期検診を受けるようにしましょう。また、歯を磨くタイミングや回数など、昔からの常識にも変化があります。あまり神経質にならず「食べたら磨く」「早食いはせず、よく噛み唾液の分泌を増やす」ことを心がけましょう。

11月30日

「その症状、もしかして重症？」

講師：嵯峨野病院 医師　原田（はらだ） 佐智夫（さちお）

身体の様々な症状が重症であるか、緊急性のあるものかの判断についてお話しました。

例えば、腰痛や腹痛の際に今までに経験したことがない様な痛み・冷汗が出る・顔面蒼白・ショック状態・血便が出る等の症状が現れた場合は緊急での受診・処置が必要です。

一方、重症でない例としては肋骨骨折があり、安静時は鈍痛がありますが、運動時には疼痛の増大が見られるのが特徴で、緊急性としては低くなっています。

適切な判断でご自身や周囲の人たちの命を守っていきましょう。

12月21日

「インフルエンザの予防について」

講師：嵯峨野病院 看護部長　小林（こばやし） 淳子（じゅんこ）

インフルエンザの予防には、マスクの着用・手洗い・うがいを常に心がけ、体調管理・生活環境に注意を払い、人ごみを避けるなどの工夫が大切です。

特に、持病のある方はウィルスに感染しやすく、重篤化しやすいので、かかりつけの医師にインフルエンザについての諸注意を確認しておきましょう。

まだまだインフルエンザの流行の時期は続きます。しっかりと予防をして元気に過ごしましょう。

第27回 日本慢性期医療学会in大阪
参加のご報告

令和元年12月3日と4日に開催された日本慢性期医療学会に、当院からも各職種の職員が参加してまいりました。年に一度、全国各地から慢性期医療の関係者が集まり、現在の課題等について議論や、取り組みや症例についての報告を行うこの学会で、当院からは3名が以下の演題を発表しました。

発表演題

「医療療養病棟及び介護療養病棟における
皮膚トラブルに関する看護・介護職員の意識調査」
看護師　中江 大樹

「パーキンソン病における起立性低血圧の改善を目指し、
干渉電流型低周波治療器を用いて介入した一症例」
理学療法士　岩田 建都

「症例報告　居宅における
回腸ストーマトラブルのある患者へのアプローチ」
管理栄養士　七尾 達也